

平成27年度 学校法人 三幸学園 名古屋ビューティーアート専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 早坂 達

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 小森 敏和

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、美容分野の学校として「人を美しくすることで人を元気にし、日本を世界を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、美容分野として「お客様を美しくすることで感謝される、サロン・組織を活性化できる(皆をハッピーにする)人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 27年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 重点施策振り返り

平成27年度では、次の5点を重点的に取り組んだ。

1. 主体性を育む教育
2. 退学率の低減
3. 検定合格率の向上
4. 掃除、挨拶の徹底
5. アクティブラーニングの工夫、確立

結果として掃除・挨拶はできていない場合は、早急に対策をたて、継続して徹底できるように工夫してきて、生徒の主体性を育む教育も強化してきたが、退学率の低減は目標に達することができなかった。

② 学校関係者評価委員会コメント

生徒の様子をみていると、礼儀正しく、挨拶はできている。第三者の目から生徒を見ると、数年前に比べて、生徒同士がお互いに関心が無いように見えるため、そういったことも退学につながっているのかもしれない。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1). 教育理念・目標

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか (専門分野の特性が明確になっているか)	④ 3 2 1
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	④ 3 2 1
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4 ③ 2 1
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	④ 3 2 1

① 課題

・学校の理念や目的などは入学前保護者説明会などで話をして伝えているが、不参加の場合は直接伝える機会が設けられずに終わっている場合がある。また、継続的に書面(学校新聞)にて伝え続けてはきたが、浸透度が不明である。

② 今後の改善方策

・学校としては生徒へしっかりと理解をさせて指導する様に教員全員で意識して取り組んでいる。
・保護者会参加促しの強化及び定期的な学校情報の共有を実施したが、回数が少なくタイムリーなお知らせが出来ていないため、授業参観などを開催して、保護者が学校へ来て実際の授業の様子を見ていただく機会や、担任と面談する機会などを提供していく。

③ 特記事項

・学園のミッション「人を活かし、困難を希望に変える」と、ビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」を掲げている。

ポスターなどを利用し学生にも公開して、学園の目指す方向性を具体的に示している。

④学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(2). 学校運営

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	④ 3 2 1
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	④ 3 2 1
人事、給与に関する制度は整備されているか	④ 3 2 1
教務・財務等の組織整備など意識決定システムは整備されているか	④ 3 2 1
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4 ③ 2 1
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4 ③ 2 1
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4 ③ 2 1

① 課題

・グループウェアなど三幸学園全体としてシステム化に取り組んでいるが、各教員まで内容が浸透しきれていないが現状。

② 今後の改善方策

・新システムの勉強会や業務効率化についての講習会を実施。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(3). 教育活動

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	④ 3 2 1
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	④ 3 2 1
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	④ 3 2 1
授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	④ 3 2 1
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	④ 3 2 1
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	④ 3 2 1
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	④ 3 2 1
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4 ③ 2 1
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4 ③ 2 1

① 課題

・クラス運営や教育技術などの能力向上の取り組みは、各個人に任せられている部分が多く、学校全体としての取り組みが個人能力で差がついている。

② 今後の改善方策

・クラス運営力を向上させるための担任指導者を設置する。また授業の進め方アンケートの改善や担任アンケート

トの設置などを行い、シラバスの変更により教育の質の担保を学園全体として教務力の向上及び個人差の幅を狭くすることに努めていく。また、教員の教務力UPのため、定期的に研修を実施していく。

③ 特記事項

- ・三幸学園独自の教育手法であるアクティブラーニングを導入し、能動的学習を積極的に行っている。
- ・産学連携や地域貢献への取り組みを行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

就職先をネットのみで調べて、事前訪問をせずに判断して、入社してくる新入社員がいる。就職先を選ぶ方法をしっかり教えるなど、今後社会に役立つ人間力を学校でしっかりと教えた方がよいと助言をいただいた。

(4). 学修成果

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	就職率の向上が図られているか	④	3	2
資格取得率の向上が図られているか	④	3	2	1
退学率の低減が図られているか	4	3	②	1
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	4	③	2	1
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4	③	2	1

① 課題

・退学率の低減については昨年に比べ改善されている。今後は卒業後勤務継続状況など連絡が取れない等不明なこともあることから調査方法の改善が必要。

また、卒業後の就職に関しては、気持ちの面で3年続かない卒業生が多くなってきている。

② 今後の改善方策

・担任指導者を設置しクラス運営力の向上を図ると共に、継続的な目標設定を促す。また、クラス会も必要時には随時実施して何か些細な問題でもあれば、早期解決できるように取り組んでいく。新入生向け入学前のオリエンテーションや保護者会などを行い、学校の教育方針の理解・浸透を図っている。

・卒業後のことを考えての心の教育については、就職指導の授業だけではなく、成功の法則などの授業や行事を通して、心身共に成長できるよう強化していく。

③ 特記事項

・学生の就職後も企業訪問を積極的に行い、卒業後の様子も把握している。

④ 学校関係者評価委員会コメント

卒業後の技術レベルは問題ないが、社会人としての意識レベルや人間関係などでギャップを抱えている卒業生が多いように感じるため内面の成長をさらに強化することが必要であると助言をいただいた。

(5). 学生支援

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	④ 3 2 1
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4 ③ 2 1
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4 ③ 2 1
学生の生活環境への支援は行われているか	4 ③ 2 1
保護者と適切に連携しているか	④ 3 2 1
卒業生への支援体制はあるか	④ 3 2 1
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4 ③ 2 1
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4 3 ② 1

① 課題

・保護者との連携は今後強化していきたいものの1つ。入学前保護者会への参加率を向上させ、入学前に本校の教育方針を理解して頂き、保護者と連携して学生のサポートをしていきたい。

・卒業生支援制度に関しては周知がまだ薄い。

② 今後の改善方策

・保護者会への参加促しの強化及び定期的な学校情報共有の実施をしているが直接対話する機会を設ける。

・卒業生支援制度の卒業生への積極的なアプローチを実施、また在籍時より卒業生サイトがあることの告知、有効活用方法の告知を強化していく。

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

高校の先生方に、三幸学園の進路・就職に対する支援が伝わっていないように感じている。実際は、しっかり行っているのにもったいない。もっと連携を取った方がよいと助言をいただいた。

(6). 教育環境

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	④ 3 2 1
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	④ 3 2 1
防災に対する体制は整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

・特に大きな課題はない。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・企業と連携をし、現場が求めている人物像をキャッチし、インターンシップ前の指導及び終了後の指導・アドバイスなど事後指導の実施をして、卒業後に現場で活躍できる人材育成を実施。
- ・日本の美容業界に欠かせない着付けの授業についても企業連携し授業委託を実施。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(7). 学生の受入れ募集

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3		
	やや不適切:2	不適切:1	
学生募集活動は、適正に行われているか	④	3	2 1
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	④	3	2 1
学納金は妥当なものとなっているか	④	3	2 1

① 課題

- ・特に大きな課題はない。学生の立場に立って、学費などは出来る限り安くできるように努力している。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

- ・美容師通信課程併修者の学費減免を実施。(平成28年度生より)

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(8). 財務

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3		
	やや不適切:2	不適切:1	
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	④	3	2 1
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	④	3	2 1
財務について会計監査が適正に行われているか	④	3	2 1
財務情報公開の体制整備はできているか	④	3	2 1

① 課題

- ・特に大きな課題はない。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

○中長期的な財務基盤の安定について

- ・中期事業計画が策定され、当該計画は H25 年度に前倒しで完了している。
- ・生徒募集は堅調に推移し、予算も計画通り推移し財務基盤は安定している。

○予算および収支計画の有効性、妥当性について

- ・予算・収支計画については、正確かつ適正な予算編成を行うことを目的として、毎年度、学校責任者が策定し、総務部と理事で構成する予算編成会議において原案を策定している。
- ・予算執行状況が当初予算と乖離する場合、予算編成会議において補正予算の原案を策定している。
- ・策定された原案については、理事長説明を経て、理事会・評議員会において目的と有効性が審議され、有効かつ妥当なものとなっており、決算書、予算書、事業報告書に反映している。

○会計監査について

- ・私立学校振興助成法第14条第3項の規定に基づき、公認会計士による会計監査を受検している。また、私立学校法第37条の学校法人監事による業務監査及び関係監査を受検している。
- ・法人内部では総務部による内部監査を実施し、監事、公認会計と情報共有を行い、財務の正確性と業務執行状況について担保している。

○財務情報公開について

- ・財務情報の公開については、私立学校法に基づく体制整備している。なお、財務内容についてはWEBで閲覧可能な状態となっている。また、事業報告書を作成し、時系列且つグラフを用いて第三者からも理解しやすい工夫を行っている。

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(9). 法令等の遵守

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1			
	法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	④	3	2
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④	3	2	1
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	④	3	2	1
自己評価結果を公開しているか	④	3	2	1

① 課題

- ・特に大きな課題はない。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(10). 社会貢献・地域貢献

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	④ 3 2 1
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	4 ③ 2 1
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	4 3 ② 1

① 課題

・特に大きな課題はない。

② 今後の改善方策

③ 特記事項

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

(11). 国際交流(必要に応じて)

【評価項目】	適切:4 ほぼ適切:3 やや不適切:2 不適切:1
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	4 ③ 2 1
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	④ 3 2 1
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	4 3 ② 1
学内で適切な体制が整備されているか	4 ③ 2 1

① 課題

・留学生を受け入れる体制は整えているが、入学希望者がほぼいないのが現状。

② 今後の改善方策

・留学生向けの進路相談会などへの戦略的な参加が必要。

③ 特記事項

・留学生向けに外国語の募集要項を作成。

・留学生学費支援制度(選考あり)

・留学生申請取次者常駐

④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

今年度はより退学率の一層の低減を図っていきたい。そのためには、毎月の精皆勤率にも意識をして、クラス状況の把握を全教員で取り組んでいく。また教員の教務力向上やクラス運営力の向上についてのより積極的な取り組みが必要不可欠である。さらに接客業の基本である挨拶や清掃活動などより徹底していくことも心がけ、就職後のイメージのギャップなどですぐに退職をしないよう、しっかりと心の教育も強化していく。

自己評価の結果は概ね問題ないが、細部をしっかりと点検し、地域や業界から必要とされる学校になるために課題をしっかりと把握し学校を運営していく必要がある。

平成 28年度でも引き続き、次の5点を重点的に取り組むこととする。

1. 主体性を育む教育(心の教育強化)
2. 退学率の低減
3. 検定合格率の向上
4. 掃除、挨拶の徹底
5. アクティブラーニングの工夫、確立